

四国地区包装産業特集

大和エンジニアリング

独自開発のケーサー提案

ティッシュユ向けに機械出荷

大和エンジニアリングは、愛媛県松前町、089・984・4432は、機械出荷台数3700台超という

計3700台を超える機械を出荷している。開発した「ティッシュユケーサー」は、金融機関など多用途で使われるノベルティ向けティッシュボックスを集積し装填する。集積はロボットを使用し、あらゆる積み付けパターンを記憶させることができ、機械化対応が難しいとされていた分野での製品化となった。

多大な実績が評価となり企業の信頼性を高めている。先にもノベルティ向けティッシュボックスを集積後に段ボールに装填するケーサーを開発出荷した。蓄積された製封函需要に

同じような個装サイズにも集積口ポで積み付け、コンベアで流し装填後にテープで封函する。スピードは毎分8枚の製封函能力だが、作業現場の要望に応じ超高速から低速にすることも可能という。

製品化ノウハウが差別化となつて独自性を示し、メーカー優位性を発揮。今後ますます受注量を拡大するものと注目されている。

同社は、1982年（昭和57年）に機械設計を業務とする「大和設計」としてスタート。90年（平成2年）に製造部門「大和エンジニアリング」を設置し、多様な製封函需要に

同社によれば、ティッシュボックスの中でも「ノベルティ向けは機械化が困難」とユーザー間で定説となっていたという。事実、自身のペーパー自体の入り数やサイズ違い、ボックスサイズも一定でなく、しかもロットも少量傾向にあるなどのことが理由だ。

同社が製品開発するまで納入先となったユーザーでは、詰め合わせ作業前に工場内で段ボールの組立作業を行い、人海戦術でケースごとにボックス詰めを行い封函していた。ボックスもバラや5個入りパックがあり個装の姿も一定ではないなど、どのことも困難さを増す要因となっていた。

こうした状況に対応した開発機は、自動型替え機能を備え、ランダムな個装サイズにも集積口ポで積み付け、コンベアで流し装填後にテープで封函する。スピードは毎分8枚の製封函能力だが、作業現場の要望に応じ超高速から低速にすることも可能という。



開発した「ティッシュケーサー」

同社は製品開発するまで納入先となったユーザーでは、詰め合わせ作業前に工場内で段ボールの組立作業を行い、人海戦術でケースごとにボックス詰めを行い封函していた。ボックスもバラや5個入りパックがあり個装の姿も一定ではないなど、どのことも困難さを増す要因となっていた。

